

論文発表からみた ES 細胞ねつ造事件

山崎茂明

愛知淑徳大学文学部図書館情報学科

ソウル大学獣医学部の黄禹錫教授 (Hwang Woo Suk ; ファン・ウソク) グループによる不正行為事件を、発表論文の量的な分析を通し、オーサーシップ上の問題を指摘し、同種の事件への対応策のポイントを提示することを目的としている。生命科学・医学領域の最大かつ信頼性の高い文献データベースである PubMed をもちいて、“Hwang WS”(Hwang Woo Suk : 黄禹錫) で検索すると 191 件が得られる。さらに、“Seoul” で限定すると 56 件が検索された。この 56 件は、すべて黄教授グループの論文であった。しかし、筆頭著者の所属が Seoul 以外や海外の場合は、含まれないため、残りの 95 件もすべて確認し、15 件を黄教授の論文として追加し、合計 71 論文を分析対象とした。文献調査は、2005 年 12 月 29 日 - 31 日に行った。実際の PubMed 検索は、個人文献管理ソフトである ProCite を用いて行い、検索データの集計と分析にも利用した。

発表誌の特徴を分析するため、発表誌ランクリストを作成した。1 位は Theriogenology 誌であり、全 71 編の発表論文の 24 パーセントにあたる。雑誌の評価指標である Impact Factor は、1.640 と低い。Elsevier 社が出版している国際的商業学術誌であるが、生殖生物学や獣医学分野の一流誌ではない。名声と Impact Factor 値からみて、一流誌とみなせるのは Fertility and Sterility 誌であり、5 論文を発表していた。黄教授グループ論文で、もっと多く出現する共同研究者と筆頭著者は誰か。71 編の黄教授グループ論文で、共著者としてもっとも寄与しているのは、李柄千 (イ・ビョンチョン ; Lee Byeong Chun) ソウル大獣医学部教授であり、45 論文にのぼる。ただし、筆頭論文は、2005 年の Nature 論文だけである。二番目の寄与は、姜成根 (カン・ソングン ; Kang Sung Keun) ソウル大獣医学部教授であり、筆頭論文はないが、37 編で共著になっている。この 2 名の貢献度は、3 番目以下の共著者の論文数からも顕著である。彼らは、黄教授の右腕となってきた研究者であり、姜成根教授は Science 誌の 2 論文について、ねつ造に関与していたことが明らかになっている。筆頭著者を見ると、若手研究者の寄与が顕著であった。オーサーシップの誤用も、黄事件不正調査委員会により明らかにされた。明らかな貢献がないにもかかわらず著者に入っている有名研究者がいた。事件が公表され、ES 細胞をまったく見ていないと語り、実験内容に関与せず原稿も発表前に読んでいないにもかかわらず、著者になっていると発言していた。また、Science の 2004 年論文の著者に、研究に実際に参加していない大統領府情報科学技術補佐官の名前が共同著者として記載されていた。

研究世界を覆う、ハイプレッシャーを取り除くことはできないかもしれないが、市場化や競争主義が、学術研究の発展モデルになるのか再考が求められる。